

教育

新宝島

1988.4

「あかねこ漢字スキル」誕生！

漢字指導で大切なのは「覚え方を教える」ことである

解説 遠藤真理子



（「ゆび書き・なぞり書き・うつし書き」の3つのステップを教える）

11月特典

向山洋 | 教育資料

No 24 | NOV. 2025

本資料について

一 まつたく新しい漢字教材の誕生

漢字をどう教えるか――。

向山洋一氏は、その核心を次の二言で示した。

「覚え方を教える」 いふのである。

1988年4月、教育現場に大きな衝撃を

与える教材が生まれた。

それが『あかねこ漢字スキル』（以下、漢字スキル）である。

二 漢字スキルの特徴

漢字スキルには、二つの特徴がある。

A 新しい漢字を確実に覚えるシステム
B 自ら挑戦する漢字テストのシステム

- 1 ゆる書き
- 2 なぞり書き
- 3 うつし書き

やるにテストにも、子どものやる気を引き出す仕掛けがある。

おちがえても終わりではない。子どもたち

は「口をかわべて書く」。

「もう一度アストロ――」

三 本冊子収録の向山実物資料

向山氏は漢字スキルをどのように構想し、つくり、そして広めていったのか。

本冊子には、その歩みを物語る貴重な実物

資料が収録されている。

漢字スキル誕生の瞬間を、ぜひ味わっていただければと思つ。

- (1) 「あかねこ漢字スキル新発売」
1988年4月

向山実物資料 A70-51-01

- (2) 向山洋一「教育科学国語教育」
1988年3月号、明治図書、p.79-83

なぜ、この教材で子どもは新しい漢字を正確に、しかも速く覚えられるのか。
その理由は、三段階のステップにある。

解説は、遠藤真理子氏である

「あかねこ漢字スキル」

授業特典映像はいかが――



<https://vimeo.com/1125780194/6c7d261cc62>

1988年4月号、明治図書 p.77-79

(4) 向山洋一「向山式漢字学習システム」
1989年、向山室物資料 A09-97-01

(5) 向山洋一「法則化漢字学習システムの確立のために」
1988年、向山実物資料 A70-32-01

(6) 向山洋一「漢字の指導で大切なこと」（直筆原稿）
1988年、向山実物資料 A70-50-01

(7) 向山洋一「新漢字習得システム」（向山式漢字指導） 1988年7月
向山実物資料 A70-11-01

(8) 向山洋一「一ねんのがくしゅう」（直筆原稿） 1988年12月号
向山実物資料集 A09(2)-102-01

(9) 佐藤道子「向山式漢字修得システムネットワーク通信 No.7」 1988年7月1日、向山実物資料 A70-37-01



4~6年 学期刊
B5判 40ページ
天のり綴り
学校納入定価250円

子どもたちは、自分からやってくるようになります。
漢字習得法の決定版ついに誕生!!

ステップ漢字習得システム

あかねこ 漢字スキル

新発売

1988年4月

編集 漢字習得システムプロジェクト
▶光村教育図書(株) + 教育技術法則化研究所 ◀

発行 光村教育図書株式会社 〒141 東京都品川区上大崎2-19-9 TEL(03)779-0581

発売 横浜教育技術研究所 〒233 横浜市港南区東永谷2-2-13 TEL(045)821-4638

漢字練習が、いま、変わりました。

漢字ドリル、漢字プリントから漢字スキルへ。

漢字の好きな子どもにしたい。自分から学ぶ子どもにしたい。——だれでもそう願います。
しかし、今までの漢字ドリルは、忍耐と苦痛の場になりました。

漢字を楽しく、喜んで習得できる方法——わたしたちはその課題に取り組み、全国の先生が
たの実践をもとに、習得法をシステム化しました。

漢字の覚え方がわかれば、子どもたちは、進んで学習するようになります。まちがえた漢字だけに、もう一度チャレンジできるテストなら、子どもたちは、夢中で覚えるようになります。子どもたちが、自分自身で、楽しく、しかも確実に漢字を習得できるシステム、それが「あかねこ漢字
スキル」です。

「あかねこ漢字スキル」は、次の2つの特色をもっています。

- A 新しい漢字を覚えるまでの効率的な方法。
- B 子どもたちが自ら挑戦してくる漢字テスト。

多くの先生がたと子どもたちに試されずみの画期的な漢字学習法です。
先生がた、子どもたちの強い要望がありましたので、今年度はいそぎ、
教育実践・教育研究用として限定作成をしました。

1年	70字
2年	220字
3年	410字
4年	610字
5年	800字
6年	1000字

これは、「その大体を書くこと」ができるよう
に指導要領で求められ
ている漢字の数です。

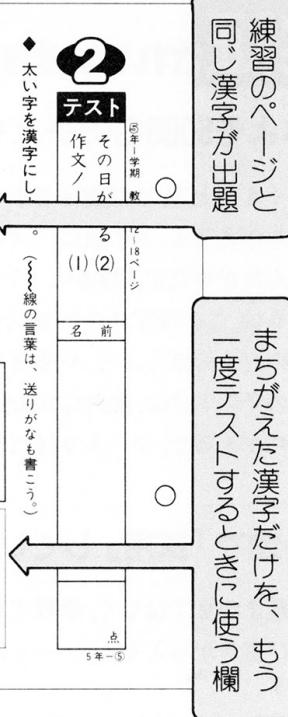
●テストのページ

実物の1/2の大きさです。

確認の「あかねこシール」をはる欄

書く欄 答えを

- ⑩ ほけんしつ。
- ⑨ きほん練習。
- ⑧ クラブをしどうする。
- ⑦ 記事をしゅざいする。
- ⑥ 模ぞうしを使う。
- ⑤ 決心をたしかめる。
- ④ 声をどうじに出す。
- ③ エラーのれんぞく。
- ② しゅびがますい。
- ① レギュラーはもり。



あかねこ漢字スキルだと、なぜ、子どもは自分から「もう一度 テストして」と言うのだろうか。

あかねこ漢字スキルの最大の特徴は、テストの答えの欄が2つあることです。

1回目のテストで正しかったら、あかねこシールをはります。

まちがえたところは、もう一度テストします。2分ぐらいですみます。まちがえたところだけをもう一度テストすることが大切なのです。子どもは、せがむように、「もう一度テストしてください」と言ってきます。

自分から練習してくるテスト——それは、次のような方法で行います。

- ① 前もって練習のページを配付します。
- ② テストをします。3分ぐらいです。
- ③ できたところに確認のシール〈あかねこシール〉をはります。
- ④ まちがえたところは、そのままにさせておきます。なにも言わなくて、できなかつた漢字の練習をしてきます。
- ⑤ 放課後とか次の授業のときとかに、まちがえたところのテストをします。
- ⑥ 正答には、あかねこシールをはります。どの子も満点をとります。
- ⑦ 次回用の練習は、テストのページの裏にありますから、テストの返却と同時に、次のテストの練習をすることができます。

こうして、子どもたちは、自分から漢字を勉強するようになります。



効果はすでに 実証されています

日本教育新聞 1988年1月30日号
『教育科学 国語教育』誌 1988年3月号などで
大々的に紹介された新しい漢字スキルです。

● およそ5000名の子どもたちの声です。

- | | |
|---|---------|
| * つくえの上で、ゆび書きをすると、書き順も早くおぼえられます。 | 4年生・愛 知 |
| * まちがえても、次の日に、下のらんでもう一度テストができるからいい。 | 4年生・千 葉 |
| * なんだか本当に漢字がとくいになってきました。 | 5年生・茨 城 |
| * ぼくは、この漢字スキルを、小学校を卒業するまで、ずっとやりたいです。 | 5年生・東 京 |
| * 体のおくのほうから、やるぞやるぞとやる気が出きます。 | 5年生・神奈川 |
| * このテストには、絶対に100点を取りたいと思わせる何かがあります。 | 6年生・福 岡 |
| * まちがえると、シールをはれないので、くやしい。次はがんばるぞ、という気持ちがわきます。 | 6年生・長 野 |

● 各地で「試用」していただいた先生がたの声です。

- | | |
|--|-----------|
| * 宿題まかせではなく、学校で漢字力を保証できるようになりました。 | 4年生担任・新 潤 |
| * ゆび書きから入ると、ノートに書く負担がないばかりか、この段階で、新出漢字を筆順から覚えてしまいます。 | 4年生担任・東 京 |
| * 「練習してきなさい」と言わなくても、子どもたちは、自分から進んで練習してくるようになります。 | 5年生担任・山 形 |
| * あかねこ漢字スキルの最大のポイントは、子どもたちのほうから、漢字テストを要求してくることです。 | 5年生担任・神奈川 |
| * できなかった漢字を、できるようになろうとする「やる気」が、とてもよくわかります。 | 6年生担任・長 崎 |

このテストによって、子どもたちは確かに変わります。学習意欲や自信がわき、子どもたち自らが挑戦してくるようになります。ぜひ、使ってみてください。

近く、あかねこ漢字スキルの研究紀要を発行します。もっとくわしい報告ができます。

ご注文方法

下記の発売元に、注文書をお送りください。

発売元

あかねこ漢字スキル 注文書

学年	組	学期	部数
年	組	学期	部
年	組	学期	部
年	組	学期	部
年	組	学期	部

学校名 _____

所在地 _____

TEL () _____

ご注文者名 _____

●ご担任先生用として、1クラスに1部献本いたします。



法則化漢字学習システムの確立のために ——回数漢字習得システムについて——

向山洋 〔東京都大田区立雪谷小学校／教育技術法則化運動代表〕

—

一見、どうともしない主張にも、背景はあるものである。

私が「漢字習得システム」の開発に本格的に着手したのは、六年前であった。

もちろん、「教育技術の法則化運動」は誕生していなかつた。私は著書を一冊だしたばかりの無名の教師であった。

当時、京浜教育サークルは、ある大手出版社からの依頼で、コンピュータ用の教材ソフトを開発していた。

NHKディレクター、附属小教官などを含めたかなり大型の企画集団であった。私は企画集団のボスの位置にあつた。

漢字ソフトは企画の一つの分野であった。「どの子も楽しみながら、漢字の習得ができるらしい」というのが、私たちの願いであった。

漢字テストといえば「100回書いて覚える」というような習得方法が主流であり、私たちはそれに強い違和感を持っていたのである。

「100回書きなさい」などと指示すると「偏だけを100個書き、その後で旁を100個書く」などという子が生まれるのである。

これで良いはずがない。

中には、「家で100ページ練習してきなさい」などという途方もない宿題を出す教師もいる。更には、宿題を忘れた子に「練習ページの増加」を命令して、「ノート一冊分」もの追加宿題を課す教師もいるという。

私たちは、そんな方法に反対であった。

また「百点主義」とかいう方法があつて、クラスの全員が百点をとるまで、何回も同じテストを繰り返す方法も行っていた。

この方法は「一〇ページの宿題」にくらべれば、はるかに上質ではあるけれど、しかし、どこか大きな問題をかかえているように思えた。

熱心な民間教育運動の教師から広まつた方法らしいのが、「百点をとつた子も、もう一度同じテストを繰り返す」この方法は、私の経験からいえば、それほど良い方法とは思えなかつた。六年前、コンピュータ用教材のデモを作成した時に、私は次の説明書を書いた。

コンピュータによる漢字習得方法

1

初めてのNHKクイズ面白ゼミナールの教科書問題作成会議の時です。同席していたクイズ作家が、「おたまじやくしに歯があるか」という問題を例として出しました。私は、「それは面白いが、学校で教える教材にはならない」と発言しました。基本性・発展性がないからです。

そのかわり、「トンボの絵をかきなさい」という問題を提案しました。四年生では昆虫について学習します。その中で昆虫の体は、「頭、胸、腹に分かれている」「足は六本ある」「足は胸から出ている」ことを習います。これはどの昆虫にも共通する基本的なことです。ですからトンボの絵を正しくかけば、他の昆虫についても理解できる発展性があります。

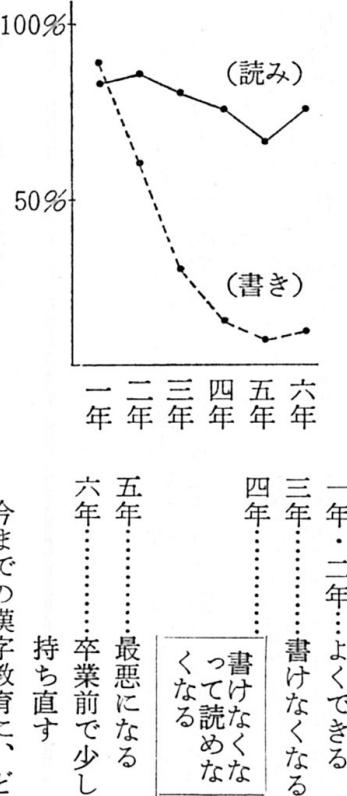
クイズ面白ゼミナールの番組では二人が正解でした。正解率一

六パーセントです。ちなみに二人ともマンガ家でした。

教材は、このようないくつかの「基本的で発展性のある」内容で構成することが大切なのです。

漢字や計算を習得することは、小学校教育の重要な内容です。とりわけ、四年生の時期が大きな問題です。

左のグラフは、正答率が八〇パーセント以上ある漢字の数の割合です。ある教育研究所の報告です。これを見ると次のように言えます。



今までの漢字教育に、どこか問題があることが考えられます。「漢字練習を五〇回やりなさい」というドリルだけの教え方は、漢字嫌いの子を作っているといわれますが、そうした教え方も一つの問題点でしょう。

この教材は、基本的で発展的な内容で作られており、漢字の学習では、「へん」「つくり」「おん」などの意味を映像

と結びつけて学びます。例えば、「精・静・清」などは、どれも「セイ」と音読みできます。「共通する意味」が含まれています。このように、漢字が持つている知恵の結晶を、知性的に楽しく学べるよう構成してあります。

「昆虫のつくり」でも、大切な内容を「昆虫バラバラ事件」の授業を通して楽しみながら学べるよう構成されています。

この教材を多くの子供に使つてもらいました。どこでも熱中して勉強にとりこんでいました。勉強の後「何分ぐらい勉強していいと思う」と聞いたところ、「一五分くらいかな」と言うのです。本当は五〇分も勉強していたのにです。

コンピュータを内臓した最新式の勉強方法だから、子どもは熱中したのでしょう。そして大切な教材を、いろいろな授業の方法で勉強すれば、「どの子も例外なく楽しく勉強できる」と、私は考えております。

二

それから六年の歳月が流れる。

京浜教育サークルは、法則化中央事務局を担当するようになっていた。

法則化中央事務局には、さまざまな出版社、研究所、企業から仕事の話が持ちこまれてくる。今までに五〇を越える出版社、研究所からの仕事の話があつた。

最近では、旺文社から『中一時代』『中二時代』『中三時代』誌上での「中学生とのツーウェイ」の企画が提案され、具体化されつつある。

そのような仕事の中に「光村教育図書株式会社」からの

「漢字習得システムの共同開発」の提案があつた。

私どもは、いすれ「ドリル」までふみ込んで完成させたいと思っていたので、この提案をうけ入れることにした。

さて、それから、私は、合宿・講演などのたびに「新出漢字が出たときの指導の方法」について、インタビューを繰り返した。

結果は明白である。新出漢字を教える方法は、人によつてバラバラであった。百人の教師がいれば、百通りの方法が出てきた。

これは、実に奇妙な現象である。

漢字を教えるなどということは、教育にとって、まず第一番目に位置することである。

それなのに、「漢字を教える原理」が、全くないのである。「漢字を教える原理」が交流されていれば、少なくとも何割かの教師は同じ方法を言うはずである。

ところが、百人百様で、まるでバラバラなのだ。

こんな簡単なところにも「教育技術」の軽視は浸透していく。

百人百様であつたために、私は自分の指導方法を原型にすることにした。私の指導方法を一応「向山式漢字習得システム」と名づけてみる。そうすると、私の指導方法と共通する人が見えるようになつた。

例えば、野口芳宏氏である。

野口氏の指導では「空書き」という方法が入つてゐる。

私は「指書き」と名付けたが、同じような方法を使う。つまり、鉛筆を持ってノートに書かせる前に、必ず、筆順を指で書かせるのである。

「ナーネンダ、ソンナコト」と思うかもしれない。しかし、ここがポイントなのである。「指で書けるようになつてから、ノートに書く」という方法を一つの原理と考えると、この原理を使っている教師は、私のインタビューの範囲では、ほとんどいなかつた。

また、佐々木俊幸氏とも共通することがあつた。

それは、漢字テストのまちがいを再度テストするときの方法である。二人とも、前回のテストでできたところはさせないのである。まちがえたところだけをテストするのである。

これも「ナーネンダ、ソンナコト」と思われるかもしれない。やつている方も多いだろう。私は十数年来この方法でやつてている。

しかし、やつていない人も多いのである。どうせもう一度テストするならということで、「再度全問をやらせる」のである。前述した「百点主義」のテスト方法も多くはこれであろう。

「全部やらせる」方法の方が、熱心で良い方法のように思える。当然のように思える。

ところがちがうのである。

何度も同じテストをやらせると「いやになつてくる」の

に対して、「まちがえたところだけをやらせる」と、自分から練習してくるようになるのである。

以上のことと原理として、光村教育図書株式会社の編集部と共同で「漢字ドリル」を開発して、見本教材を作成した。

原理は前述したことである。一応よび名を「向山式漢字習得システム」か、「法則化漢字習得システム」か「向山＝光村式漢字習得システム」ということにしてある。

今までの教材・ドリルの中にはなかつた原理を使った教材である。合宿に参加された先生方にテスト教材を使用して子どもの反応を見ていたいた。

その時のお願いの文書が次の内容である。

法則化漢字学習システムの確立のために

△向山式漢字習得システムについて△

向山 洋一

子どもたちが楽しく、しかも確実に漢字を習得できるシステムを作ることは大きな課題です。

法則化中央事務局は、光村教育図書株式会社編集部の協力のもとに研究を重ね、このたび「中間まとめ」を行いました。

新システムは、画期的な方法だと思いますが、なお改良の余地があるかもしれません。

新システムは、次の二つの部分からなっています。

A 新しい漢字を覚えるまでの方法
B 子どもが自分から挑戦してくるテスト

Aについて（四ページ図①参照△略△）

新しい漢字を覚えさせる方法は、人によってさまざまです。向山が行っている方法は、多くの先生の経験から学んだものですが、かなりよい方法だと思います。この方法は、次の三つのステップからできています。

一段階 指書き
二段階 なぞり書き
三段階 写し書き

A できなかつた問題だけをさせる。
B できたことはっきり確認してやる

二度目のとき「もう一度全部やらせたい」と思いがちですが、実はこれがいけないです。

「まちがえたところだけをさせる」ことがポイントです。

このテストによって子どもは変わってくると思います。つまり、

自分から練習してくるようになる
ということです。

* 中間報告

① 指書き…初めて出てきた文字を、「①の筆順」を見ながら、机の上に指で練習させます。

まず指で書かせるのがいいのです。できるようになるまで書かせます。練習させます。

② なぞり書き…指書きができるようになったら、「②のうしい漢字」の上を鉛筆でなぞらせます。ていねいにやる

ことが大切です。

③ 写し書き…なぞり書きをしたら、「③の白いマス」に書かせます。二字程度でいいです。

ここまでで、大丈夫なはずです。念を入れるためには、子どもたちに指で空中に書かせる「④ 空書き」で確認します。

Bについて（四ページ図①・②参照）——略

このテストのポイントは、次のことです。

漢字習得法の決定版——ついに誕生

予約受けつけ中

あかねこ漢字スキル

向山洋一

法則化中央事務局と光村教育図書編集部の共同研究から、画期的な教材が誕生しました。「あかねこ漢字スキル」といいます。

すでに、日本教育新聞、『国語教育』誌三月号でも特集され、話題をよんできています。

教科書改訂のある次年度からと思つて、いたしましたが、児童・先生方の強い要望により、いそぎ準備しました。本年は光村準拠のみです。

ぜひ、ご活用いただけたらと思います。

あかねこ漢字スキルとは、どのようなものなのか

ご紹介いたします。

子どもたちは、自分からやつてくるようになります。

漢字習得法の決定版——ついに誕生!!

あかねこ漢字スキル

編集・漢字習得システムプロジェクト（光村教育図書編集部）

書体・教育技術法則化研究所

発行・光村教育図書株式会社（〒141 東京都品川区上大崎2-19-9 Tel（03）7791-0581

発売・横浜教育技術研究所（〒233 横浜市港南区永谷2-2-13 Tel（045）821-14638

多くの先生がたと子どもたちに試されずみの画期的な漢字学習法です。

先生がた、子どもたちの強い要望がありましたので、今年度はいそぎ、教育実践・教育研究用として

A 新しい漢字を覚えるまでの効率的な方法

B 子どもたちが自ら挑戦してくる漢字テスト

◇漢字練習が、いま、変わりました。漢字ドリル、漢字プリントから漢字スキルへ。

漢字の好きな子どもにしたい。自分から学ぶ子どもにしたい。——だれでもそう願います。

しかし、今までの漢字ドリルは、忍耐と苦痛の場になりました。

漢字を楽しく、喜んで習得できる方法——わたしたちはその課題に取り組み、全国の先生がたの実践をもとに、習得法をシステム化しました。

漢字の覚え方がわかれれば、子どもたちは進んで学習するようになります。まちがえた漢字だけに、もう一度チャレンジできるテストなら、子どもたちは、夢中で覚えるようになります。子どもたちが、自分自身で、楽しく、しかも確実に漢字を習得できるシステム、それが「あかねこ漢字スキル」です。

「あかねこ漢字スキル」は、次の二つの特色をもつています。

「ゆび書き・なぞり書き・うつし書き」と、3つのステップ漢字習得システム

限定作成をしました。

◇あかねこ漢字スキルだと、なぜ、新しい漢字を正確に、速く覚えられるのだろうか。

子どもに漢字の覚え方を教えます。3ステップです。

1 ゆび書き 新しい漢字を、書き順を見ながら、机の上で練習させます。まず、指で書かせるのです。書き順どおり書けるようになるまで練習させます。

2 なぞり書き ゆび書きができるようになつたら、うすく印刷されている漢字を鉛筆でなぞらせます。ていねいに書くことが大切です。

3 うつし書き なぞり書きをしたら、白いまに書き順や字形に気を付けて書かせます。

「ゆび書き・なぞり書き・うつし書き」と、3つのステップを教えることによって、子どもたちは、書き順を覚えながら、確実に漢字を身に付けることができます。

この方法は、とても簡単で効率的な漢字の覚え方です。

子どもたちは、勉強のしかたがわかると、自分が進んで勉強するようになります。

ステップ漢字習得システムによる学習法は、子どもたちが、自分から挑戦してくる漢字テスト

⑤ 放課後とか次の授業のときとかに、まちがえたところのテストをします。

⑥ 正答には、あかねシールをはります。どの子も満点をとります。

⑦ 次回用の練習は、テストのページの裏にありますから、テストの返却と同時に、次のテストの練習をすることができます。

こうして、子どもたちは、自分から漢字を勉強するようになります。

◇子どもたちの声特集

・私は、この漢字テストをする前は、漢字はあまり好きではありませんでした。でも、今度の漢字テストは、次にくる問題がわかるのでそこを練習する気

にさせます。「百点になればいいなあ」と思いながら練習をします。まちがえてもう一度チャンスがあるので、まちがえた所をやり、覚えられるので、漢字がどんどん好きになつてきました。

(茨城県和原村綱西小5年 倉持弥生学級)

・ぱくは、かん字しんきゅうテストよりも、こっちのテストの方がいい。なぜかと言うと、ゆび書きなどり書き、写し書きをやつた方が、りすノートよりもやりやすい。おぼえやすかつたし、すらすら書けた。シールをはるのがおもしろかった。

(京都府 長谷川昭学級3年 中ノ森将也君)

・このテストは、でているもんだいぜんぶでるのでよい。まえのは、二五もんやつてきても、一五もんはむだだつた。

(照沼隆二学級4年)

・とてもおもしろくて、あつてればあつてるほどねこちやんシールがもらえるのでやるぞーとがんばれる気がする。いつもかわいいねこちやんシールがたくさんほしいと思つてしまひます。とてもやる気のてるテスト用紙です。

(5年 細野真琴さん)

・このテストになつてから、漢字がよくわかるようになった。

(5年 葛西裕香さん)

・なんとなくいつもとちがつて「〇〇点をとりたい」と思つた。このテストには、ぜつたい「〇〇点をとりたい」と思われる何かがある。

(5年 牧野さん)

・わからなかつた漢字がどんどんわかつてきて、漢字を書くのが好きになつたし、おもしろいから便利。

(5年 加藤真君)

・今までつかつていたのは同じ事をなんどもしてい

ただけ、これはわかりやすくおぼえやすい。それによつがあつたらそれだけやればいいので、やりやすい。

(東京東一小5の1)

・このテストはとつてもいいです。なぜかというと、合格シールをもらえるからです。そのためにも百点をとれるようにがんばれるからです。

(豊橋市 糸柳良和学級4年 渡辺晴美さん)

・ぱくは、新しいかん字テストになつてよかつたと思いました。理由は三つあります。

一つめは、まちがえても次の日に下のらんにかけられるからです。

二つめは、テストの前の日にくばるプリントがわかりやすいからです。

(長野市立通明小5年 小林美穂さん)

つたけど、今度は、ゆび書き、なぞり書き、うつし書き、空書きをすれば、すぐにおぼえられるからです。

ゆび書きで書き順をおぼえてから、なぞり書きできれいに書く。そしてうつし書きでおせいしょ。空書きでちゃんとおぼえたか見てもらえるので、とつても私は気に入りました。それになによりもいいところは、楽しく勉強をして、らくにかん字のテストができるということです。だからこのやりかたが、わたしはとつても気についていいと思いました。

(千葉 深沢五郎学級 尾関睦さん)

・わたしは国語がきらいでした。(特に漢字がきらいです。)

だけど、先生からもらった漢字テストで、一回目は五〇点でした。今度一枚目の紙をもらうと、わたしは、家で一時間ぐらいやつたら、七〇点になりました。三日目も家で、三〇分ぐらい練習して学校でテストをやつたら一〇〇点がとれました。

わたしは、その時「こういうプリントで、わたしのきらりな漢字テストをやるなら、毎日やりたいなあ」と思いました。わたしは、三回漢字テストをしただけ、とても漢字がすきになつてしまひました。

(長野市立通明小5年 小林美穂さん)

・このテストは、よし今度こそは、とやる気を出せるからです。だから新しいかん字テストになつてよかつたと思います。(横浜市 佐藤真健学級5年 村田知広君)

・わたしは、前のかん字のれんしゅうよりも、今回れんしゅうの方がいいと思います。少しだけいいから、あきない、気がちらない、すぐおわるから毎日つづく、といういいところがあります。

前は、でれでれと何回書けばいいのか分からなか

子どもたちの漢字習得力向上をめざした 「向山式漢字習得システム」をご存じですか。

法則化中央事務局では、子どもたちが、楽しく、しかも確実に漢字を習得できるシステムの開発に研究を重ねました。新システムは、次の二つの部分からなっています。

- A 新しい漢字を覚えるまでの方法
- B 子どもが自分から挑戦してくるテスト

昨年度から「あかねこ漢字スキル」として市販化されました。

使ってみた先生方や子どもたちから、たくさんの反響がありました。

- ・ このテストになってから、漢字がよくわかるようになった。(5年 葛西由香さん)
- ・ わからなかった漢字がどんどんわかつてき、漢字を書くのが好きになったし、おもしろくなった。(5年 加藤真くん)
- ・ ぼくは、「あかねこ漢字スキル」になってよかったです。理由は三つあります。
 - 一つ目は、まちがえても、次の日に下のらんに書けるからです。
 - 二つ目は、テストの前の日に練習するプリントがわかりやすいからです。
 - 三つ目は、90点とかで、全部シールをはれないとときは、よし、今度こそは、とやる気を出せるからです。
- だから、新しい漢字スキルになってよかったです。(5年 村田知広くん)
- ・ かんじスキルは、今までのドリルとちがって、やりやすくて、とってもいいです。かきじゅんやなぞりがきもあって、とってもおぼえやすいです。かんじスキルは、シールもはらせていいです。まちがえたら、まちがえたところだけ、もう一つの字がかかれて、とってもいいです。かんじドリルはあまりおぼえやくないから、かんじスキルのほうがいいです。(3年 信夫由香子さん)
- ・ ぼくは、あかねこかんじスキルはつかいやすいと思いました。
あかねこかんじスキルは、かんじをれんしゅうするだけでなく、すぐつぎのページにテストがあるからです。それから、二回テストがあるので、すぐにおぼえられます。
後のほうのページには、一学期中のテストがあるから、バッチリおぼえられるので、あかねこかんじスキルは、とてもべんりだと思います。(3年 加藤真也くん)

指書き---初めて出てきた文字を、「漢字ドリルの筆順」などを見ながら、机の上に指で練習させます。

まず指で書かせるのがいいのです。できるようになるまで書かせます。練習させます。

なぞり書き---指書きができるようになったら、「漢字ドリル」などに書いてある「漢字」の上を鉛筆でなぞらせます。一字分か二字分でいいのです。ていねいにやることが大切です。

写し書き---なぞり書きをしたら、白いマスに書かせます。二字程度でいいです。

ここまでで、大丈夫なはずです。念を入れるためには、子どもたちに指で空中に書かせる「空書き」で確認します。

Bについて

(1) 前もって練習のプリントを配布します。

これを見て練習するようにさせ、次のテストを予告します。

(2) 次のときテストをします。

答えあわせは、となりの子同士でも教師でもかまいません。

(3) できていたところに確認のシールをはる。

できたところにシールをはります。シールは前もって与えておいても、そのときできた数だけ与えてもけっこうです。

(4) まちがえたところは、そのままにさせる。

まちがえたところはそのままにしておきます。正しい答えを書かなくてもいいのです。

(5) この次にまちがえたところのテストをすることを予告する。

その次のとき（その日の放課後とか、次の日とか、次の授業のときとか）まちがえたところのテストをすることを予告します。

注意 必ず（まちがえたところだけ）をします。

「もう一度、全部やる」ということはやりません。ここがポイントです。

法則化漢字学習システムの確立のために

お願い

子どもたちが楽しく、しかも確実に漢字を習得できるシステムを作ることは大きな課題です。

法則化中央事務局は、教科書会社編集部との合同の研究会をもち、このたび「中間まとめ」を行いました。

新システムは、画期的な方法だと思いますが、なお改良の余地があるかもしれません。

そこで、各教室で実践をしていただき、実践結果をお寄せいただくようお願いします。

向山洋一

新システムは2つの部分からなっています。

- A. 新しい漢字を覚えるまでの方法
- B. 子どもが自分から挑戦してくるテスト

Aについて

新しい漢字を覚えさせる方法は、人によってさまざまです。向山が行っている方法は、多くの先生の経験から学んだものですが、かなりよい方法だと思います。

この方法は、次の3つのステップからできています。

- | | |
|-----|-------|
| 1段階 | 指書き |
| 2段階 | なぞり書き |
| 3段階 | 写し書き |

子どもにとってすばらしい学習方法を確立するために、ぜひお力を貸してください。

時 期 --- でき次第お知らせください。途中でもけっこうです。

第一期締切 --- 9月20日

第二期締切 --- 10月20日

宛先 〒142 東京都品川区旗の台3-3-21

向山洋一

☎ 03(783)2285

FAX 03(788)6580

(6) 予告するのも、練習するのも自由にさせる。

「練習してきなさい」というような指示をしなくてけっこうです。

(7) まちがえたところをテストする。

できたところにシールを与えます。もしできない子がいたら、3回目を個別にやってあげます。

*このとき、2回目の「次の練習」を配布する。

このテストのポイントは、次のことです。

- A. できなかった問題だけをさせる
- B. できしたことを見直してやる

二度目のとき（もう一度全部やらせたい）と思いがちですが、実はこれがいけないのです。

「まちがいだけをさせる」ことがポイントです。

このテストによって子どもは変わってくると思います。つまり

自分から練習してくるようになる

ということです。

自分から練習してくるようになるのです。

この実践結果をぜひとも、まとめてご報告いただきたいのです。

実践の結果は、学級通信の形でも、子どもの作文でも、レポートでもどれでもけっこうです。

やっての結果、子どものようす改良したほうがいい点などをお願いします。また、別の方法があったら、ぜひお知らせください。

漢字

（四）

1. おおきな本を読みました。
2. おおきな本を読みました。

3. おおきな本を読みました。

4. おおきな本を読みました。

5. おおきな本を読みました。

6. おおきな本を読みました。

7. おおきな本を読みました。

8. おおきな本を読みました。

9. おおきな本を読みました。

10. おおきな本を読みました。

11. おおきな本を読みました。

12. おおきな本を読みました。

13. おおきな本を読みました。

14. おおきな本を読みました。

15. おおきな本を読みました。

16. おおきな本を読みました。

17. おおきな本を読みました。

18. おおきな本を読みました。

19. おおきな本を読みました。

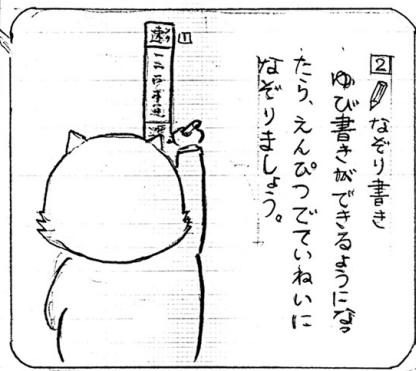
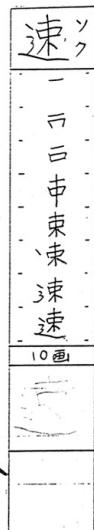
20. おおきな本を読みました。

●向山洋一「漢字の指導で大切なこと（直筆原稿）」1988年、向山実物資料A70-50-01

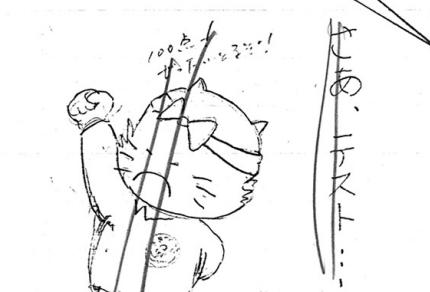
とおひでじの「漢字で読みこなす」かじと
読みこなす。だから「書く」がおひでじの「書く」
の「書く」とかちがちの「書く」にしてみ
たり読むがちがちの「書く」という「書く」
が「書く」がちがちの「書く」。

てて↑みのゆ、漢字スキーのやうな
じめに「漢字の読みこなす」であります。

「」のスキーが「かくかく」としてゆ
るの、やがて音をなしてます。のじめ
が字でねたやないところがおいてあります。
「」の「」の「」に書かれてます。
「」の「」の「」に書かれてます。
「」の「」の「」に書かれてます。



新しいかん字のおばえ方



ex. カード

⑩

⑥

⑤

④

③

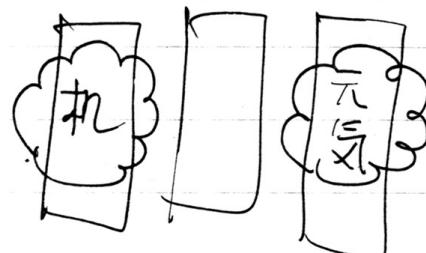
②

①

之

は

へ



1. 1回 10回の内題とす。

手本いと

2. できたS. 自分の二二一でまとめる。(友だちの見ても...)

3. できたS. 二二一でまとめる。消しゴム or 白二一 でまとめる。

4. 次の日できたS. 二二一でまとめる。

5. 内題と答えたS. 25点をもつ。おまけに、前回と次回の点数をつける。

裏

6. せつたいに35点がおまけとある。で21-35点は2. それ以上は35点とある。

新漢字習得システム(向山式漢字指導)

1987.7.9. 向山

1. 漢字を指導するときに、(A)教師が教える (B)子どもが学ぶ というふうに大別にする。「漢字を20歳まで」とは、A型である。
新しいシステムは(B)を厚顎としなければならない。
2. 「子どもが学ぶ」ことを厚顎とするには、そのための工夫・仕掛けが必要である。この工夫を大別してみる。(A)できると決められる。(B)できないことに挑戦していく。
3. 「できないことは教える」ためには、どうしたらいいか?
さまざまな方法がある。例えは「公文の「漢字方式」」がそうである。
これは、すぐれた方法で、多くの人に選ばれた。
が、漢字では、すでに教わってやっている。あらかじめ「10回も3つ並べてテストする」方法である。
できるまで(100回までとせよまで)テストが続45本くらい。
実は、これが、向山式である。やる気をもてさせている。
4. 第2回目は、「できちかった内容のみで、テストすべきだ」—— 一度もよびのうがいいに見えなかつて、厚顎は、大きくつかう。漢字方式と反対でみる。
3と並べて、ややこしい方2つ並べて、問題だけを抜き出すところをとらう。
5. 以上の1×3×2×3×2×3×2×3×2×3。

12A

一
年
の
よ
う
が
い
く
一
三
式
漢
字
学
習
法
序
文

つい先日、テレビに一時的に出演しました。
アーティス・フォーラー」という番組です。テーマは「向山式家庭教育法」についてでした。実は向山式家庭教育法（主婦の友社刊）という本が出版されてからり奴評ひめです。あつという間に再版になりました。どのようない内容かというと、「漢字の効率的
な覚え方」二重まわしのやりやすさ、「ひかるゆき」、「音韻」「逆上」「かきの練習方法」、「文章題の教え方」など、私たちの研究会が開発した内容でした。
テレビ番組が終ると、内いあわせの電話が殺到しました。世のお母さん方は、やはり「より良い情報」には敏感です。
さて、今日は「漢字の覚え方」についてお話しします。

中バラバラです。共通性のほとんどありません。名門の講義会の伝記に記載へたからです。古典的な方法と一とつノートに一行書き込むこという教え方があります。気合いで入りすぎてもノートに五行書き込むこと教えます生き生きとします。三行書きのまへんと一行書きで一行書きで、と並んで「リフヤン」と一行書きという書き方であります。みんなの方にも経験かみります。もう一つ教えます。よくおこなう方法です。効率も悪く、いいかげんに覚えますからです。漢字は、まず「指で書く」(筆で覚える)ことから大切なのです。筆等で書く前に、筆で書き方で覚えるのです。小さなことに気をよがらすが、二点が主イートなのです。せに用ひます。みくわどうしていません。

No. 3

その時、通話を口で聞こさせます。川とい
う字なう、イチ、二十一、サニ、と言わせな
かう
指で動かします。山なう、イチ、二十一、サ
ニ、とします。曲がりの部分を作ります。
この漢字練習法は、すぐれた方法です。そ
れで一步ずつ始めた(左)のが、本筋の「イ
メージ漢字練習法」なのです。かへに貼
満字で見るから、指で動かします。
指で書くようになります。かへに書き
ます。三字の程度で覚えるはります。
あ母さんが復習させますには、夕食の前に
に「空音きしナヤニナハレ」のです。空音
きしといつのは、人體(人)の空(ナ)に貼(ハ
セ)ていいます。
向邊(むかへ)で、よくあります。毎日、一分ほ
ど復習(はなし)ます。み子(みこ)の度(たび)に指
とよくなります。
イメージ字書写法は、本筋の漢字の方々の
手に入れる字書写法を練習方法をひき

No. 6

(A)

今までの毎日にちで。一年内の所有が行
ちゆる。新一年の目標が立つります。
毎年より希望年間に可べきだといふ見
もあります。

私は通知書の提出にて承認されで施行(

2. 3年もたとて申請と行(みうごと)か
ます。私は二の改訂で印刷して貰(ま)すか。
うのうのいくつかでごめり(ます)。(全部や
つてせたい)が山形県の山形の(ま)るの
友社)でござん(ト)。

ありかと(と)ると(と)うたことがみりま(と)が
うつかう(と)てぬ達(と)る人(と)が(と)う
せん。つありかと(と)ると(と)うたことが
ひき。つみりかと(と)ると(と)うたことが
ひき。

あ(と)かと(と)うて(と)うて(と)うて(と)うて
あ(と)かと(と)うて(と)うて(と)うて(と)うて

4. 別途「現代教育技術研究所制作で、光村1.2.3年用」「教科用」「東書用」を制作する

① 光村版制作担当	板倉
② 他社版制作担当	下山
第一次原稿〆切	1月下旬
第二次原稿〆切	2月10日
第三次原稿〆切	2月20日
印刷屋入稿	2月25日

5. 宣伝

A. ツーウェイ3月号、ツーウェイ4月号（5ページほどの特集を入れる）

- ・法規化ニーズ 3月号、4月号。
- ・日本教育新聞。
- ・国際教育3月号で漢字特集 → まだ広めにさらう。

B. DM	① とびきりリスト	2回ぐらいい	銀河
	② しゃせきの会	3回ぐらいい	石川
	③ 分析討論	3回ぐらいい	石川
	④ 漢字ネットワーク	10回ぐらいい	佐藤、向山
	⑤ 会員参加者（モニター）	2回ぐらいい	石川
	⑥ 中央集団局（原稿は、板倉① 小松① 下山① 向山①）	3回ぐらいい	銀河
	⑦ ビデオリスト	1回ぐらいい	板本
	⑧ サークル面（全社）	2回ぐらいい	青文
	※ 20代参加リストのみ		小松
	※ 20代 参加リストのみ		青文

C. 現地	① 仙台	⑤ 大阪	⑨ 山形
	② 教育技術学会	⑥ 高知	
	③ 鹿児島	⑦ 福岡	
	④ 福井	⑧ 大分	

秋

中央事務局

1988.1.14. 向山

漢字習得システム(漢字トリル市場へ)参入。

1. 教材企画の一環として、漢字習得システムの市場へ参入する。

この参入の意義は次の通りである。

- (1) 漢字指導技術への問題提起 ① 指導主、指導者、うわき書きの指導
② 学生がやってくる漢字テストの提出
- (2) 法則化運動として初めての教材企画への参入
- (3) 法則化運動として初めての教科書会社との協力

2. この仕事に失敗は許されない。(失敗すれば、この方面へは5年遅れる)

「すぐれた教材で」「シェア第一の教科書会社と共同で」「法則化運動に統合力をあげて」失敗するようなら、成功できる企画はない。

そのため、「この普及には、中央事務局が責任をもって取り組み、代金の回収も中央事務局が担当する」ことにする。

3. 商品は次の通り

商品名 赤ねこ漢字スキル (天の川式・赤ねこシールつき)

定価 250円

発行元 光村教育図書

編集 漢字習得システムプロジェクト(光村教育図書編集部と現代教育技術研究所)

研究所

発売元 現代教育技術研究所

注文方法 ハガキ(TEL)で、現代教育技術研究所へ

支払方法 現場到着後、1ヶ月以内に郵便、銀行振込にて

注 4年、5年、6年のみ

4月発売を待てない。今年度中に、今年度の漢字の力を
つけて進級、卒業させたいとおっしゃる方、酒田教育サ
ークル自作の「向山式漢字習得システム」をお分けします。
各学年1部 送料共500円 1年～6年1セット送料共2000円
(現金でも切手でも構いません) 添えてお申し込み下さい。

(第3種郵便物認可)

新しい教育の波

自作のドリル作成

漢字指導をシステム化

新日本漢字などいの数であるかは小学校の国語教育のテーマの一つだが、こんな大切な指導技術をもじねまじ原則的な方法が確立されていなかった。それで「ペーパーとぶなわ」などもどか熱中するヨークな教材開発に取り組んでいた教育技術の汎販化運動は今度「活性化を取りやめ、自分が勉強したくなる漢字цикл」を光村教育図書株式会社と共同開発、近く発売するに至った。同時に、漢字習得システムの研究と技術のためのネットワークについても形態化酒田市の近郊化サークルが中心になって進めていく計画で、漢字指導や習得技術の共有販売化に向けたの汎販化運動の問題提起の一つにしたがった。

自分から勉強したくなる

えやすい」と子どもに好評、効果のあることがわかった。

法則化運動では、この漢字

ぬに商品化するにした。
また、JRの漢字ドリルを有

酒田教育サークルに事務局

効性を確認済みのもので、
出漢字の習得率を飛躍的に高
める“新兵器”だといふ。

上形義興田主の小学校教師
・佐藤道子さんの話だが、H
先生のクレバリーのペイントを
持がれていたりして「練習し
ておなじ」といふやうでも、
子どもが自分で進んで練習し
ていねむらじよいた②定着率
が高こ(1回で平均九一%)
がわから、問題も十問ずついじ
る。③次にアドバイスするが
、△「向日市漢字圖鑑シズ」
筆に効果のある教材を開拓
するだけでも、その良辰を
活用していくのが眞体的な
報を父孫で楽しむのが活用
化運動の強味と云ふ。△は
だけに、教科書会社や教材へ
一ヵごといつても、活用化運
動の動向がまたいい。
△「向日市漢字圖鑑シズ」

向山式漢字修得システムネットワーク通信

No. 7

1988.2.1.月

発行者 佐藤 道子

〒999-81 山形県酒田市

こんなに大きく
とりあげて
いたべきました。

恐れ多いことです。
事の重要性をひしひしと実感
しています。

法則化運動が初めて取り
組む教材企画です。

新年度(1988年4月)から
いよいよ登場する『赤ね
漢字スキル』の見本も、

どうぞ届きました。

昨秋提案されたものを、モニター報告をもとに更に
改良を加えられたすぐきなものです。まもなくお手元にお届け
いたします。ご希望の方は、70円切手添付の返信用封筒
を同封して申し込んで下さい。

〒999-81

山形県酒田市

佐藤道子

日本教育新聞
ニュースエデュケー



このたびは、向山式漢字修得システムの原理を説明され
た漢字スコルがいざがいなが
つたたなが、向山式漢字修得
で漢字スコルをはつて改良を
重ねてきました。光だ教育図書と
共同開発、ついで改良改
た向山式漢字スコルが、法則
化運動に参加する教師による二
ターニングの、この、の有

宿号一八一〇一
08-0908
合せや一八一〇一
新宿区東京都
現代教育技術研究所
831

漢字の苦手な子を救う 「あかねこ漢字スキル」の威力

遠藤 真理子

二 「指書き・なぞり書き・写し書き」

一 意識すらなかつた漢字指導

私が小学生の時（1970年頃）、授業で漢字ドリルは使っていなかつた。担任の先生が「明日、教科書○頁の漢字テストをします」と予告し、当日は口頭で問題を出して答えを書く、という方法でテストをしていた。授業中、新出漢字の読みや筆順についての説明はされたと思うが、漢字練習は各自に任せされていた。（宿題すらほとんどなかつた。）

教師となり、あの横長の漢字ドリルに出会う。学年で統一して漢字ノートも購入した。ドリルの指示通り筆順通り書かせ、漢字ノートにテストの練習をさせた。

学力差のあるクラスで、苦手な児童に百点の喜びを体験させることはできなかつた。1988年、あかねこ漢字スキルが発売された。私が法則化中央事務局に加えていただ

あかねこ漢字スキルの一つめの特長が、この練習の三段階である。

指書きは、筆順だけでなく、同時に折れや曲がりも確実に覚えるために有効である。爪の部分で書く児童もいるので、指紋の部分で書かせることで脳に刺激が伝わる。

机に指書きをします。指紋の部分でしっかりと書くと、刺激が伝わって脳が活性化します。筆順をよく見て、「いち、いい」と画数を唱えながら覚えるまで書きなさい。

鉛筆で薄い字をなぞります。

一ミリもずれないように書きましょう。

子ども達は「見えた、見えた」と大喜びで練習した。

指書きなら、文字を書くことが苦手な児童にいつも負担が少ないのでなく、偏だけを先に書いて後から旁を書く、などということもできなくなる。

なぞり書きでは字形を意識させる。丁寧に書かせるために次のように声かけをする。

いたのがその一、二年ほど前で、必然として向山型漢字指導を知ることになる。

速く書けるようになると、机に書いた文字が見える（残像）ようになつてくれるよ。

低学年なら文字そのものをなぞらせてから机に指書きをさせても良い。

慣れてきたら、次のように言うと更に一生懸命書くようになる。

最後は写し書きで、自力で書けたことを意識させる。

最後は自分で書きまわ。上の漢字と同じ形になるように、よく見て書きましょう。

教師はほめながら花丸をつけていけば良い。

三 「**指書き**」で確認

先ほどの三段階で「指書き」をした後行うとよい。人差し指で空中に大きく書かせるのである。子ども達は自分では筆順を正しく覚えたと思い込んでいるが、中には怪しい児童もいるものだ。できれば教師は左手の人差し指で鏡文字を大きく書く。(ちなみに、慣れていない方は、右手で教卓の上にでも普通に漢字を書き、同時に左手で鏡文字を書くと意外とすんなりと書けるので試してみてほしい。)一緒に筆順を唱えながら書く。慣れてくると、違う動きをしている児童が見えてくる。違う児童が多ければ、「五人も間違えています。あと三回、指書きしなさい」と練習させてから再度空書きをやればいい。

私は、空書きをしながら、止めの時は「ぎゅつと力を入れて」とか、はらいの時は「先っぽが

すうっと細くなるように」とか意識させて書かせるようにした。そして、全員が揃つてたら、スピードアップしたり、目をつぶつて書かせたりする。いわゆる変化のあるくり返しだ。

このように、できるかできないかを全員一齊に教師が確認できることが大きなメリットである。

四 間違えたところだけ再テスト

私はこのような考えは一ミリも思いつかなかつた。このシステムを知った瞬間、「特に苦手な児童には最適な方法だ」と悟った。

苦手な児童は間違いも多い。それなのに、正しく書けた漢字まで練習させるなど時間の無駄というものだ。「間違えた問題だけ」ならハードルが下がる。正に自ら挑戦したくなる

テストである。私のクラスでも、あつという間に再テストで全員が百点を取ることができた。

テストの練習ページについても、横に一回ずつ書くことで短時間でも一回は練習できるとい

う利点の他に、違う漢字を一回ずつ三回繰り返す、という練習になるため、同じことのくり返しを避けることが可能になる。

五 さかねこ漢字スキル、あかねこ漢字スキル

考え抜かれた「あかねこ漢字スキル」が更に広まってくれることを願っています。

現在は、どのクラスにもそれなりに課題を

抱えた児童がいる。物事を覚えることが苦手な児童もいるが、ただ書いて練習するより複数の感覚（五感）を使って練習することで定着しやすくなることも分かつていて、

で、先ほどの三段階を行った時はどうか。

指書きをするときは画数を唱えながら書く。見ながら声を出して自分の声を聞く。指

先に圧を感じて書く。視覚・聴覚・触覚に動作も加わる。練習しながら脳も活性化しているに違いない。

また、脳は一般的に、同じことを何度も繰り返すと飽きるのだそうだ。つまりノートに同じ文字を何回も書いて練習する方法は、苦手な児童にとつては苦痛としかなり得ないだけでなく、得意な児童にとつても脳が飽きた状態になるといふのだ。

テストの練習ページについても、横に一回ずつ書くことで短時間でも一回は練習できるとい

う利点の他に、違う漢字を一回ずつ三回繰り返す、という練習になるため、同じことのくり返しを避けることが可能になる。



11月特典 No.24 | 2025年11月

向山洋一 教育資料

1988.4 「あかねこ漢字スキル」誕生!

漢字指導で大切なのは「覚え方を教える」ことである

授業特典音声

<https://vimeo.com/1125780194/6c7d261c62>



発行日 2025年11月7日

発行所 向山洋一教育技術研究所

所在地 〒142-0064 東京都品川区旗の台2丁目4番12号



谷和樹の教育新宝島
<https://shintakarajima.jp>



向山洋一公式ウェブサイト
<https://mukoyamayoichi.com>

このPDFは、プリンタの「冊子印刷」を選択すると冊子になります。
他人への譲渡および個人研究以外の目的で使用することを禁じます。